

第2回デジタル化検討会 次第

1 開会

2 概要説明

3 ワークショップ

休憩

ワークショップ

4 閉会

プロトタイピングとは

プロトタイピングとは……

「試作品（＝プロトタイプ）を作って検証すること（問題の発見や問題の解決を行うこと）」



? なぜ福祉相談分野においてプロトタイピングが必要か？

→ステークホルダーが多く、問題の原因が複合化しており正解を導き出すのが大変

■問題の種類

- シンプルな問題（解き方は簡単、正解が存在し、客観的な解決判定（調べればすぐに正解ができる）が可能）
Ex) 県内の民生委員の委嘱人数は何名か など
- 複雑な問題（解き方は困難、正解が存在し、客観的な解決方法が可能）
Ex) ○○市において、R▲年度から新規で重層的支援体制整備事業を開始する など
- そもそも明らかな正解が存在しない問題（解き方は不明、客観的な解決判定は不可能）
Ex) 福祉相談のデジタル化のプロトタイプはどのようにあるべきか など

★「そもそも明らかな正解がない」ため、何が正解かもやってみないとわからない★
→プロトタイプを作って試しながら、皆で検討を深め、最適解を探ることが重要になります

※プロトタイプはより良いものとなるよう次年度以降も必要に応じて改善していくことを想定

デザイン思考の中でのプロトタイプ的位置づけ[参考]

※ 「デザイン思考」：商品開発のデザイナーの考え方を体系化したもの→その中の過程の一つに「プロトタイプ」という工程がある

■本事業によるプロトタイプのアプローチ方法

- (1) 使用するユーザーに対する理解（≒第1回検討会）
- (2) デジタル化ニーズの明確化（≒第2回検討会）
- (3) アイデア出し→絞り込み（≒第2回検討会）
- (4) (3)によるプロトタイプ（試作品）を開発（≒第3～4回検討会）
- (5) テストを行うことで実際の機能開発に結びつけていく（≒各市へのデモ）

[メリット]

構想段階から構成員皆で検討を重ね、フィードバックを得ることで、これまで気付かなかった点に対する改善策を打ち立てやすくなる。